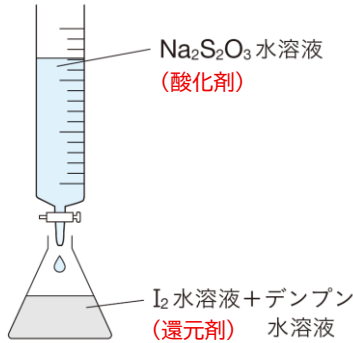
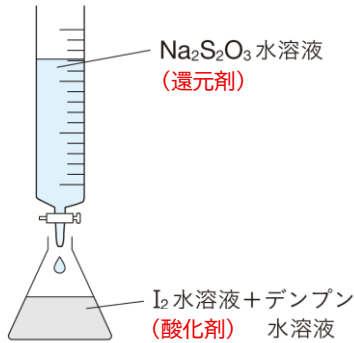
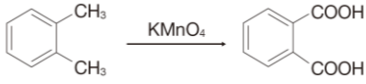
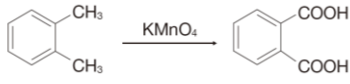


『大学入試 参考書と問題集がセットで学びやすい ニコイチ化学』
に関する誤植のお詫び・訂正のお知らせ

この度は『大学入試 参考書と問題集がセットで学びやすい ニコイチ化学』（2024 年 7 月 9 日第 1 刷発行）をご購入いただきまして、誠にありがとうございます。

大変申し訳ございませんが、本冊の以下のページに誤表記がございました。ここに訂正させていただきますとともに、深くお詫び申し上げます。

講義編	誤	正	修正刷
p.35 下部例の原子量	$0 = 14$	$0 = 16$	2 刷で 修正済み
p.36 POINT015 内	(相対質量) × (原子量) の和で求められる。	(相対質量) × (存在比) の和で求められる。	3 刷で 修正予定
p.39 POINT017 内	$\begin{aligned} & \text{質量モル濃度}[\text{mol/kg}] \\ &= \frac{\text{溶質の物質質量}[\text{mol}]}{\text{溶媒の質量}[\text{kg}]} \times 100 \end{aligned}$	$\begin{aligned} & \text{質量モル濃度}[\text{mol/kg}] \\ &= \frac{\text{溶質の物質質量}[\text{mol}]}{\text{溶媒の質量}[\text{kg}]} \end{aligned}$	2 刷で 修正済み
p.61 過酸化水素の 半反応式	Step1 $\text{H}_2\text{O}_2 \rightarrow \text{H}_2\text{O}$ Step2 $\text{H}_2\text{O}_2 \rightarrow 2\text{H}_2\text{O}$ Step3 $\text{H}_2\text{O}_2 + 2\text{H}^+ \rightarrow 2\text{H}_2\text{O}$ Step4 $\text{H}_2\text{O}_2 + 2\text{H}^+ + 2\text{e}^- \rightarrow 2\text{H}_2\text{O}$	Step1 $\text{H}_2\text{O}_2 \rightarrow \text{O}_2$ Step2 $\text{H}_2\text{O}_2 \rightarrow \text{O}_2 + 2\text{H}^+$ Step3 $\text{H}_2\text{O}_2 \rightarrow \text{O}_2 + 2\text{H}^+ + 2\text{e}^-$ ※Step4は削除	2 刷で 修正済み
p.67 図中			3 刷で 修正予定
p.119 8～10 行目	$\begin{aligned} & \textcircled{1} \times \frac{3}{2} \dots\dots \\ & \textcircled{2} \times \frac{1}{2} \dots\dots \\ & +) - \textcircled{3} \dots\dots \end{aligned}$	$\begin{aligned} & \textcircled{2} \times \frac{3}{2} \dots\dots \\ & \textcircled{3} \times \frac{1}{2} \dots\dots \\ & +) - \textcircled{4} \dots\dots \end{aligned}$	2 刷で 修正済み

p.123 解答 問3	$\frac{CM(m+W)(b-d)}{1000\textcolor{red}{W}}$ (NaOH 1molあたりの発熱量は、 $\frac{CM(m+W)(b-d)}{\textcolor{red}{W}} \times 10^{-3} \text{ kJ/mol}$ である。また、……	$\frac{CM(m+W)(b-d)}{1000\textcolor{red}{m}}$ (NaOH 1molあたりの発熱量は、 $\frac{CM(m+W)(b-d)}{\textcolor{red}{m}} \times 10^{-3} \text{ kJ/mol}$ である。また、……	3 刷で 修正予定
p.130 POINT060 内	$\text{Pb} + \text{PbO}_2 + \text{H}_2\text{SO}_4 \longrightarrow 2\text{PbSO}_4 + 2\text{H}_2\text{O}$	$\text{Pb} + \text{PbO}_2 + \textcolor{red}{2}\text{H}_2\text{SO}_4 \longrightarrow 2\text{PbSO}_4 + 2\text{H}_2\text{O}$	3 刷で 修正予定
p.149 6 行目	$K = \frac{[\text{CH}_3\text{COO}^-][\text{H}_3\text{O}^+]}{[\text{CH}_3\text{COH}][\text{H}_2\text{O}]}$	$K = \frac{[\text{CH}_3\text{COO}^-][\text{H}_3\text{O}^+]}{[\text{CH}_3\text{CO}\textcolor{red}{O}\text{H}][\text{H}_2\text{O}]}$	3 刷で 修正予定
p.163 下から 2 行目	アンモニア NH ₃ に $\textcolor{red}{塩化水素 HCl}$ を近づけると、固体の塩化アンモニウム NH ₄ Cl が生成し、……	アンモニア NH ₃ に $\textcolor{red}{濃塩酸}$ を近づけると、 $\textcolor{red}{塩化水素 HCl}$ と反応し、固体の塩化アンモニウム NH ₄ Cl が生成し、……	2 刷で 修正済み
p.168 先生のセリフ	$\textcolor{red}{KBr}$ と $\textcolor{red}{Cl}_2$ は反応しないんだね。	$\textcolor{red}{KCl}$ と $\textcolor{red}{Br}_2$ は反応しないんだね。	3 刷で 修正予定
p.180 解答 問1	オ $\textcolor{red}{濃塩酸}$	オ $\textcolor{red}{塩化水素}$	2 刷で 修正済み
p.203 下から 1 行目	$\textcolor{red}{スズ}$ が腐食されやすい	$\textcolor{red}{鉄}$ が腐食されやすい	3 刷で 修正予定
p.241 例題 2 行目	油脂A 11.0 g に0°C, 1.013×10 ⁵ Paで 1.40 Lである。	油脂 A 11.0 g に $\textcolor{red}{付加する水素は}$ 0°C, 1.013×10 ⁵ Pa で 1.40 L である。	2 刷で 修正済み
p.248 一番下	 $\textcolor{red}{p}$-キシレン フタル酸	 $\textcolor{red}{o}$-キシレン フタル酸	2 刷で 修正済み
p.285 Point 123 ナイロン 66 の 合成	$\dots + n\text{H} - \overset{\textcolor{red}{O}}{\underset{ }{\text{N}}} - (\text{CH}_2)_6 - \overset{\text{H}}{\underset{ }{\text{N}}} - \text{H}$ $\textcolor{red}{ヘキサメチレンジアミン}$	$\dots + n\text{H} - \overset{\textcolor{red}{H}}{\underset{ }{\text{N}}} - (\text{CH}_2)_6 - \overset{\text{H}}{\underset{ }{\text{N}}} - \text{H}$ $\textcolor{red}{ヘキサメチレンジアミン}$	2 刷で 修正済み
p.285 Point 123 ナイロン 66 の 合成	$\dots - \overset{\text{O}}{\parallel} \text{C} - \overset{\text{H}}{\underset{ }{\text{N}}} - (\text{CH}_2)_6 - \overset{\text{H}}{\parallel} \text{N} - \dots \Big]_n$ $\textcolor{red}{ナイロン66}$	$\dots - \overset{\text{O}}{\parallel} \text{C} - \overset{\text{H}}{\underset{ }{\text{N}}} - (\text{CH}_2)_6 - \overset{\text{H}}{\underset{ }{\text{N}}} - \dots \Big]_n$ $\textcolor{red}{ナイロン66}$	2 刷で 修正済み

演習編	誤	正	修正刷
p.16 練習問題 5 (3)	18.0 mol/L濃硫酸を用いて5.00%希硫酸を500 g つくるには A が何mL必要か。	18.0 mol/L濃硫酸を用いて5.00%希硫酸を500 g つくるには 濃硫酸 が何mL必要か。	2刷 で修正済み
p.46 (2)下から3行目	$P_{\text{He}} = 5.0 \times 10$ L	$P_{\text{He}} = 5.0 \times 10$ Pa	3刷 で修正予定
p.50 (B)の一番下	$x = 32.1 \approx 32$ g	$y = 32.1 \approx 32$ g	3刷 で修正予定
p.55 練習問題 20 解説(3)	混合気体中の酸素の分圧は, $\frac{0.30}{0.30 + 0.10} \times 1.0 \times 10^5$ $= 0.75 \times 1.0 \times 10^5 \text{ Pa}$ 酸素の分圧は $1.0 \times 10^5 \text{ Pa}$ の 0.75 倍の圧力であるため、酸素の溶解量も 0.75 倍となる。水700mLに溶けている酸素は、 0°C , $1.013 \times 10^5 \text{ Pa}$ で, $49 \times 0.75 \times \frac{700}{1000} = 25.7 \approx 26 \text{ mL}$ 解答(3) 26 mL	混合気体中の酸素の分圧は, $\frac{0.30}{0.30 + 0.10} \times 2.0 \times 10^5$ $= 1.5 \times 1.0 \times 10^5 \text{ Pa}$ 酸素の分圧は $1.0 \times 10^5 \text{ Pa}$ の 1.5 倍の圧力であるため、酸素の溶解量も 1.5 倍となる。水700mLに溶けている酸素は、 0°C , $1.013 \times 10^5 \text{ Pa}$ で, $49 \times 1.5 \times \frac{700}{1000} = 51.45 \approx 51 \text{ mL}$ 解答(3) 51 mL	3刷 で修正予定
p.57 練習問題 21 問題 1～2 行目	(原子量 : H = 1.0, C = 12, O = 16, Cl = 35.5, Ca = 40, ...)	(原子量 : H = 1.0, N = 14 , C = 12, O = 16, Cl = 35.5, Ca = 40, ...)	2刷 で修正済み
p.75 解答	グラフより、発生した熱量がすべて温度上昇に使われたとすると、溶液は 31 °Cになるため、水酸化ナトリウムの溶解による温度上昇は, $31 - 20 = 11^\circ\text{C} = 11 \text{ K}$ となる。また、混合後の水溶液の質量は $240 + 10 = 250 \text{ g}$ である。発生した熱量は, $250 \text{ g} \times 4.2 \text{ J}/(\text{g} \cdot \text{K}) \times (31 - 20) \text{ K} = 11550 \text{ J} = 11.55 \text{ kJ}$	グラフより、発生した熱量がすべて温度上昇に使われたとすると、溶液は 30 °Cになる(時間0分のときの値を読み取る)ため、水酸化ナトリウムの溶解による温度上昇は, $30 - 20 = 10^\circ\text{C} = 10 \text{ K}$ となる。また、混合後の水溶液の質量は $240 + 10 = 250 \text{ g}$ である。発生した熱量は, $250 \text{ g} \times 4.2 \text{ J}/(\text{g} \cdot \text{K}) \times (30 - 20) \text{ K} = 10500 \text{ J} = 10.50 \text{ kJ}$	2刷 で修正済み

p.76 1～7 行目	NaOH 1molあたりの熱量は、 $\frac{11.55\text{kJ}}{\frac{10}{40}\text{mol}} = 46.2 \approx 46\text{kJ/mol}$ この反応は発熱反応であるため、固体の水酸化ナトリウムの溶解エンタルピーは、-46 kJ/mol なお、溶解エンタルピーを ΔH [kJ/mol] として化学反応式とともに表すと次のようになる。 $\text{NaOH(固)} + \text{aq} \longrightarrow \text{NaOHaq}$ $\Delta H = \text{-46 kJ}$	NaOH 1molあたりの熱量は、 $\frac{10.5\text{kJ}}{\frac{10}{40}\text{mol}} = 42.0 \approx 42\text{kJ/mol}$ この反応は発熱反応であるため、固体の水酸化ナトリウムの溶解エンタルピーは、-42 kJ/mol なお、溶解エンタルピーを ΔH [kJ/mol] として化学反応式とともに表すと次のようになる。 $\text{NaOH(固)} + \text{aq} \longrightarrow \text{NaOHaq}$ $\Delta H = \text{-42 kJ}$	2刷で 修正済み
p.82 8 行目	陰極で発生した塩素H₂は、	陰極で発生した水素H₂は、	3 刷で 修正予定